

東葛しぜん観察会 パークプロジェクト

おもしろ講座「タネ、命をつなぐカプセル」

勝股 政雄（船橋市）

日 時：2021年11月13日（土）9時30分～12時

場 所：21世紀の森と広場（松戸市）

参加者：大人12名（人数制限で）

講 師：勝股・長谷川（依）、指導員：渋谷・三嶋、パークセンター1名

秋まったく中で、雲一つなく穏やかな日和に恵まれました。参加された皆様もニコニコ顔でした。この日の講座は、前半で野外を回り、タネの観察をすることにしました。その際、気になったタネを少しプラカップに入れて持ち帰ってもらうことと「タネについて気が付いたこと」と「不思議に思ったこと」をメモしてもらうことにしました。

公園内を歩きながら、ワタ、ケイトウ、チャノキ、トネリコ、カキノキ、ハンノキ、イヌシデ、ケヤキ、コナラ、イロハモミジ、フジ、シラカシ、ガマズミなどどの植物のタネを、虫眼鏡でのぞいたりしながら十分に観察しました。それぞれに色や形、大きさ、散布のための仕掛けなどの特徴があり、参加者の皆さんには感激していました。

部屋に帰ってきてから、全体で話し合いをしました。初めに、参加者から、メモを見ながら、「気が付いたり不思議に思つたりしたこと」を一人ずつ発表してもらいました。＜たくさんのタネの発芽を見たい＞＜花のどこが膨らんでタネになるのか？＞＜ドングリの生命力に驚いた＞＜タネの寿命を知った＞＜風を利用したタネの散布に感心した＞＜タネの色が黒か茶色が多いのはなぜ？＞＜ドングリをたくさん作るエネルギーがすごい＞などの意見が出ました。まず初めに、タネはどこにできるのか？についてを話題として考えることにしました。被子植物の場合は子房が成長して果実となること、そして種子（タネ）はその中にあります。だが、ウメやモモの様に一つの花にひとつのタネができるものもあれば、アブラナの様にたくさんのタネができる例や、オランダイチゴの様に花托が大きくなつて粒々が果実であることなどの例を挙げて果実と種子の関係を皆で考えました。次にタネの散布の作戦は？についてをとりあげました。風を利用する・動物を利用する・水を利用する・自力で飛ばす、の4つに分けて、動けない植物たちが子孫を残すために子どもを新天地に旅立たせる見事な工夫を、皆で感じ取ることができたと思います。



トネリコのタネは羽のような形です タネのおもしろ座学でよい勉強 ケヤキの小さな葉と種が回って落下